食品安全委員会第 113 回会合議事録

1．日時 平成 17 年 9 月 29 日（木） 14:00～14:33

2．場所 食品安全委員会大会議室

3．議事

(1) 肥料・飼料等専門調査会における審議状況について

・普通肥料 けい酸加里肥料及び熔成けい酸加里肥料に関する意見・情報の募集
について

(2) 食品安全モニターからの報告（平成 17 年 8 月分）について

(3) その他

4．出席者

(委員)

寺田委員長、小泉委員、寺尾委員、中村委員、本間委員、見上委員

(事務局)

齊藤事務局長、一色事務局次長、小木津総務課長、國枝評価課長、吉岡勧告広報課長、
杉浦情報・緊急時対応課長、西郷リスクコミュニケーション官、福田評価調整官

5．配布資料

資料 1 肥料・飼料等専門調査会における審議状況について

資料 2 食品安全モニターからの報告（平成 17 年 8 月分）について

6．議事内容

寺田委員長 それでは、第 113 回の「食品安全委員会」を開催いたします。

本日は 6 名の委員が出席されております。

スケジュールにつきましては、お手元の資料の議事次第を御覧になってください。

資料の確認をお願いいたします。資料は 2 点であります。

資料 1 が「肥料・飼料等専門調査会における審議状況について」。

資料 2 が「食品安全モニターからの報告（平成 17 年 8 月分）について」であります。
資料はございますね。

それでは、議題に入らせていただきます。

「肥料・飼料等専門調査会における審議状況について」事務局から説明をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

國枝評価課長 それでは、資料 1 に基づいて御説明を差し上げたいと思います。

「肥料・飼料等専門調査会における審議状況について」ということですが、農林水産省から「食品安全委員会」に意見を求められました普通肥料の公定規格の変更が 2 点ございます。けい酸加里肥料の公定規格の変更、熔成けい酸加里肥料の公定規格の変更に係る食品健康影響評価につきまして、平成 17 年 9 月 16 日に開催された「肥料・飼料等専門調査会」において審議され、別添のとおり審議結果がとりまとめられました。

この結果（案）につきましては、幅広く国民に意見・情報を募った後に「食品安全委員会」に報告することとしたいと思っております。

「募集期間」としては、本日 9 月 29 日木曜日開催の「食品安全委員会」後から平成 17 年 10 月 26 日までの 4 週間です。

それでは、2 枚ほどめくっていただきまして、審議結果（案）を御覧いただきたいと思っております。

今回の審議結果ですが、2 品目ございまして、1 点は「けい酸加里肥料の公定規格の変更」ということで「既に定められている公定規格について、使用できる原料として塩基性のナトリウム及びカルシウムを追加する。これに伴い、く溶性加里の『含有すべき主成分の最小量』を引き下げる」こととなります。

2 点目としまして「熔成けい酸加里肥料の公定規格の変更」ということで「既に定められている公定規格について、含有すべき主成分であるく溶性マンガンを、必ず保証しなければならない成分から、選択して保証できる成分に変更する」ものでございます。

まず「けい酸加里肥料」について、御説明をしたいと思います。1 ページの真ん中の 3 の（1）というところを御覧いただきたいと思っております。

「既存のけい酸加里肥料は、普通肥料の『加里質肥料』に該当し、原料及び生産工程については、公定規格において『塩基性のカリウム若しくはマグネシウム含有物又はほう素質肥料及び微粉炭燃焼灰を混合し、焼成したもの』とされている。

評価の対象となるけい酸加里肥料は、原料として塩基性ナトリウム及びカルシウムを追加して使用することで、肥料中のけい酸成分を保持したまま、原料の塩基性カリウムの使

用量を減らし、製品の加里成分を低減させたものである」。

これは、土壌に交換性加里が蓄積する傾向にあることなどの農業事情から加里成分を低減させたけい酸加里肥料の生産の要望があったことを踏まえたものであります。

施用方法の例は、そこに記載のとおりでございます。

「原料及び製造方法」につきましては、次の2ページを御覧いただきたいと思いますが、表1に「製品1,000 kgを製造する時の原料の使用割合」、図1に「製造工程の概要」という記載がございますが、ここの「追加する原料」というところが今回追加される部分で、水酸化ナトリウムあるいは炭酸カルシウム、あるいは水酸化カルシウムとなっております。

また「原料中の有害物質」ですが、3ページを御覧いただきたいと思います。

従来品中の有害成分のほとんどは、原料として使用される微粉炭燃焼灰由来のものということで、表2に記載の形で、重金属の含有量が含まれていることが示されております。

また、今回新たに追加された炭酸カルシウムについての有害成分量の含量は、表3に示すとおりでございます。

「製品中の有害物質」ということで、実際に調査したところが表4に書いてございまして「製品中の重金属の含有量」ということで、ヒ素、カドミウム、ニッケル、クロム、チタン、水銀、鉛については、記載のとおりでございます。

また「製品の施用による植物に対する害の有無及びその程度を確認するために、こまつなを用いて栽培試験を行ったところ、製品中の有害物質によると考えられる生育上の異常症状は認められなかった」。

次に「熔成けい酸加里肥料」ですが「既存の熔成けい酸加里肥料は、普通肥料の『加里質肥料』に該当し、原料及び生産工程については、公定規格において『カリウム含有物に製鋼鋼さいを混合し、熔融したもの』とされている」。

評価の対象となる熔成けい酸加里肥料は、製鋼工程の変更に伴う、原料となる製鋼鉞さいの組織変化により、既存の熔成けい酸加里肥料に比べてマンガン成分の含有量が低下したものである」。

このため、マンガン成分の保証の選択ができるようにということで、今回規格変更ということで食品健康影響評価がきたものでございます。

施用方法の例は、めくっていただきまして、4ページの上に記載のとおりでございます。

「原料及び製造方法」については、表5に「製品1,000 kgを製造する時の原料の使用割合」図2に「製造工程の概要」に記載のとおりでございます。

「製品中の有害物質」につきましては、表6に記載のとおりでございます。

5 ページを御覧いただきたいと思います。

以上の結果から「食品健康影響評価について」でございますが、これについては、平成16年3月18日の「食品安全委員会」で了承されました普通肥料の公定規格に関する食品健康影響評価の考え方に基きまして、肥料中に含有される可能性があると考えられる重金属について審議をしております。

まず「ひ素、ニッケル、クロム、チタン、鉛及び水銀について」でございますが、それぞれそこに記載のとおり結果ということで、農作物の摂取を通じて、これらの重金属による健康被害を生じる可能性は極めて低いと判断されました。

「カドミウムについて」ですが、カドミウムは農作物を汚染する可能性があることから、土壌汚染の程度を指標として試算を行っておりまして、最大施用量で1年間施用したときに、肥料中のカドミウムがすべて土壌に吸着したと想定した場合のカドミウム負荷濃度を試算しました。

その結果が表7のとおりでございますが、けい酸加里肥料及び熔成けい酸加里肥料について、それぞれ「試算される土壌負荷濃度(ppm)」は、そこに記載のとおり0.00067 ppm、0.000093 ppmということで、普通肥料に由来するカドミウムは、当該肥料を施用した場合においても、現在の農用地中の平均カドミウム量0.34 ppmをほとんど増加させないと判断しました。

「以上のことから、審議したけい酸加里肥料及び熔成けい酸加里肥料については、適切に施用される限りにおいて、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる」としました。

以上でございます。

寺田委員長 どうもありがとうございました。

ただいまの説明あるいは記載事項に関しまして、どなたか御意見あるいは質問ございませんでしょうか。

本間委員 内容に関することなんですけれども、よろしいですか。

寺田委員長 どうぞ。

本間委員 しかも、こうやって審議が終わって報告データをおくというのは。

寺田委員長 いや、本間先生これから意見募集するところです。

本間委員 本来、ヒトの安全性に係る判断をするのが対象物ですね。確かに肥料は植物に入って、それがまた食品に入ってくるわけなんですけれども、あまりにも判断する対象物が遠いという感じがします。

これは別に制度の問題ですから苦情とかそういうことではございませんが、私は大学で習った対象物でありますけれども、何かここでこういうふうなものを取り上げるということとは「食品安全委員会」のルール上はなるんでございますね。

國枝評価課長 食品安全基本法に基づきまして、諮問する、聞くということになっております。

寺田委員長 24条の諮問事項の中の法律を変えるということになっています。

本間委員 肥料は、あまりにもここで我々が持っている知識、関心事と遠過ぎないかと思えます。済みません。愚問でございます。

寺田委員長 ほかに何か御意見ございますか。

小泉委員 教えてほしいことが何か所かあります。

5ページの肥料中のカドミ濃度の規制値が、けい酸加里肥料は1 ppmで、もう一つの熔成の方は0.1となっているんですけれども、使用量を見ますとほとんど10a当たり100kgということで、使用量は同じなのにカドミの基準が10倍違うのは何なんでしょうか。

寺田委員長 わかりますか。

國枝評価課長 お答えします。

表7の部分については、実は試算値ということで、肥料中のカドミウムについてそれぞれ資料を申請しているところの業者が違うということもあるんですけれども、実際に使う肥料のカドミウム濃度を調べたときに、一応限度値ということでそれ以下だったんですが、最大を見てけい酸加里肥料の方は1 ppm、もう一つは分析するところが違うということになると思いますが、0.1以下ということで、0.1を最大でとったということになります。

小泉委員 測定値ですね。

國枝評価課長 そうです。

小泉委員 わかりました。

寺田委員長 ほかにありますか。

それでは、本件に関しましては、意見・情報の募集手続に入ることにいたします。

それでは「食品安全モニターからの報告（平成17年8月分）について」事務局からお願いいたします。

吉岡勸告広報課長 それでは、資料2に基づいて御報告をいたします。

「食品安全モニターからの報告（平成17年8月分）について」でございますが、51件の報告がございました。

内容でございますが、BSE関係が8件、農薬関係が6件となっております。なお、7

月に 11 件御報告のありました鳥インフルエンザにつきましては、8 月分は 1 件となっております。

それでは「食品安全委員会」関係を中心に御報告をさせていただきます。

おめくりいただきまして、2 ページでございます。「食品安全委員会」の活動についての御報告でございます。

まず「専門調査会の役割と存在について」。「食品安全委員会」と専門調査会との位置関係。専門調査会の開催や審議内容の決定、人選や任命についてのお尋ね、また公募を含めて、さまざまな人の力を集めて、より信頼性の高いものにしていく必要があるのではないかという御意見でございます。

これにつきましてのコメントでございますが、専門調査会は「食品安全委員会」の決定に基づいて、本委員会がリスク評価を行うに当たり、専門の事項について意見を聞くために設置されているものであることから、専門調査会が自らの判断によってリスク評価を行うことはできません。

また、人選でございますが、専門調査会ごとに専門委員としてふさわしい学識経験を有する方を選定することとしており、任命は内閣総理大臣が行います。

また「企画専門調査会」「リスクコミュニケーション専門調査会」の専門委員の一部については、公募を行っている旨のコメントを御用意しております。

次に「貴重な資料をわかりやすく市民に提供すること」として、意見交換会や説明会における質疑応答のうち、参考になるものを取りまとめ、後日周知していただきたい。

また「食品安全に関する PR について」。先般のセミナーで「食品安全委員会」より講師が招かれ好評であったが、今後とも意見交換会の開催案内をお願いしたいという御報告でございます。

これにつきましてのコメントでございますが、委員会が主催する意見交換会につきましては、当日の配布資料や質疑応答なども含め、議事録などを当委員会のホームページに掲載していることを御紹介するとともに、また、特に国民の皆様の関心の高いテーマについての意見交換会などにつきましては、季刊誌やホームページの Q & A などでも取り上げるなど、その情報提供に努めているところで、今後とも適宜適切な情報の発信に努めてまいりたいとのコメントを御用意しております。

また「携帯電話による情報提供及び相談窓口の設置について」の御意見でございます。

「食品安全委員会」では、ホームページや「食の安全ダイヤル」などを通じて、情報提供等を行っておるところでございますが、携帯電話を利用した情報提供につきましては、そ

れに伴う体制の整備等も必要であることから、現状では速やかに対応することは困難な状況でございますが、いずれにせよ情報提供の手法も含め、今後とも検討させていただきたいとのコメントでございます。

次に4ページでございますが「リスクコミュニケーション関係」でございます。

リスクコミュニケーションはとても重要であり、従来の方法に更に踏み込んでほしいという御報告でございます。

これにつきましては「食品安全委員会」ではリスクコミュニケーションが重要であるという認識の下、さまざまな方法でその実施に取り組んでいるところでございますが、手法や今後の方向性などについては、現在「リスクコミュニケーション専門調査会」において議論を重ねているところであり、より効果的なリスクコミュニケーションの実施を目指し、皆様からいただいた御意見も踏まえながら、今後とも一層努力してまいりたいとのコメントを御用意しております。

引き続きまして、5ページは「BSE関係」でございます。

米国産牛肉に関して、5件の御報告でございます。その安全性確保や「プリオン専門調査会」での慎重な論議等の御意見でございます。

「食品安全委員会」は、現在「プリオン専門調査会」におきまして、と畜場等の衛生管理に関する規則の遵守状況等も含め、米国及びカナダのBSE対策を十分に踏まえ、中立公正な立場から、科学的な検討を行っている旨のコメントを用意しております。

7ページにまいりまして、米国でのBSE感染2例目発症に関する報道を読み、1つの出来事がどのように報道されているのかということ、消費者も幾つかの報道を受け止め考えてみる必要があるのではないか。「食品安全委員会」としての受け止め方やとらえ方を機会あるごとにもしっかりと知らせてほしいといった御意見。

また「最新のBSE問題の進展状況について」。従来のリスクコミュニケーションでは足りない、あらゆる手を使う時期に来ているという御意見でございます。

「食品安全委員会」では、BSEなど国民の関心が高いテーマを中心に、Q&Aの作成やホームページへの掲載、季刊誌や用語集の作成・配布、また意見交換会の開催などを行っているところでございます。

更に、マスメディアに対する正確な情報の提供にも努めているところでございますが、今後ともさまざまな機会を利用しながら、国民の皆様へ食品の安全性に関する科学的知見に基づいた情報を正確かつわかりやすく提供するように努めるとともに、多くの方々に興味を持っていただけるよう、説明や情報提供の方法などを工夫してまいりたいとのコメント

トを用意しております。

続きまして、8ページは「山羊肉の安全性について」。「食品安全委員会」にヤギ肉のリスク評価をお願いしたいとの御報告でございます。

本年、フランスにおいてBSEプリオンが初めてヤギから検出された事例を踏まえた御報告でございますが、「食品安全委員会」といたしましては、本年10月からのELISA法による検査の実施も含めた、これまでのリスク管理機関の取組み状況を踏まえながら、今後とも必要な情報収集を行い、適切に対応していくというコメントを用意しております。

9ページが「鳥インフルエンザ関係」でございます。

また、10ページにまいりまして「食品添加物関係」。

過去に摂取して現在使用禁止となっている添加物が及ぼす健康への影響がわかるような評価はありますかというお尋ねでございます。

これに対するコメントでございますが、過去に摂取していて、現在使用禁止となっている添加物の健康への影響については、添加物以外の他の要因との因果関係などもあり、直接評価することは困難ということでございますが、最近の事例として、アカネ色素を例にとって御紹介をしております。

アカネ色素につきましては、動物の試験結果を踏まえ、ヒトの健康被害を未然に防ぐため必要な措置をとったものであり、これまでアカネ色素及びこれを含む食品によるヒトへの健康被害は報告されていませんとのコメントでございます。

次に12ページでございます。「農薬関係」について、以下6件御報告がございました。

「キュウリ等の残留農薬について」。散布翌日に出荷して、1日で残留基準以下に分解しているとは考えられない。基準以下に低下するというデータを教えてほしいとの御報告でございます。

「食品安全委員会」では、農薬のリスク評価に当たり、作物残留試験成績についても評価を行っており、その評価結果は農薬ごとに農薬評価書に記載されているところでございまして、そのホームページを御案内しております。

次に16ページでございますが「化学物質関係」で、トランス脂肪酸について我が国では規制をしていないのはいかがなものか。情報開示を望む。

また、トランス脂肪酸の摂取量について、一般消費者にも広く理解してもらう必要があるのではないかといった御報告でございます。

これに対するコメントでございますが「食品安全委員会」では、トランス脂肪酸について、科学的知見に基づくファクトシートを作成して公表しておりまして、その中でも我が

国の状況として、諸外国と比較して日本人のトランス脂肪酸の摂取量が少ない食生活から見て、トランス脂肪酸の摂取による健康への影響は小さいと考えられると整理しているところでございます。

「食品安全委員会」としては、トランス脂肪酸の摂取量と健康リスクの情報も含め、引き続きこれに関する科学的知見を収集し、必要に応じファクトシートを改訂し公表するなど、情報提供に努めてまいりたいとのコメントを御用意しております。

17 ページが「汚染物質関係」でございます。

「魚介類における水銀の含有量の安全性基準について」。一層研究を進めて、わかりやすい情報を提供してほしい。

また、我が国独自のデータをつくり、消費者にわかりやすく告知すべきといった御意見、御報告でございます。

「食品安全委員会」は、本年 8 月 4 日に魚介類等に含まれるメチル水銀についてのリスク評価を回答したところございまして、その内容を御紹介するとともに、意見交換会を開催し、ホームページや季刊誌などを通じ、その結果の情報提供に努めてまいりたいということをご用意させていただいております。

なお、この審議は主としてフェロー諸島とセイシェル諸島の疫学研究を基に行いましたが、現在環境省において日本人集団を対象とした疫学研究が進められており、新たな知見が発見されれば、再評価が検討されるものとのコメントを御用意しております。

18 ページが「自然毒・かび毒関係」。

19 ページが「遺伝子組換え食品関係」の御報告でございます。

また 20 ページは「新開発食品関係」。

更に「食品衛生管理関係」では、4 件の御報告をちょうだいしております。

また 22 ページ～24 ページにかけて「食品表示関係」で 5 件の御報告がございます。

また 24 ページで「その他」として分類されておるものが 8 件でございます。

25 ページでございますが、食育関係で 4 件御報告をいただいております。

また、その中では食育の一貫性を食品安全委員会の主導でとりまとめ、指導していくことが大切だという御意見もいただいております。

これに対するコメントでございますが、食育につきましては、本年 7 月に施行された食育基本法に基づき、内閣府に「食育推進会議」を設置し、今後その基本計画を作成し、実施を推進していくことになるわけございまして、食育推進基本計画の具体的な実施に当たっては、内閣府食育推進室及び本委員会を含めた関係府省が連携しつつ取り組むことと

しておりまして、「食品安全委員会」におきましても、引き続き食品の安全性の確保に関する情報の提供及びこれについての意見交換を積極的に実施することにより、食育の推進に努めてまいりますとのコメントを御用意させていただいております。

以上でございます。

寺田委員長 どうもありがとうございました。

ただいまの説明に関しまして、どなたか御意見あるいは質問を含めましてありませんか。

小泉委員 5ページのBSE問題なのですが、メディアでもいろいろ情報提供されて、ちょうど真ん中の ですが、米国のBSEの特定危険部位除去規制違反が1,036件あると。この数字が非常に大きくとらえられているんですが、少し追加して申し上げますと、これはパブリック・シチズンという米国の団体が公開請求したわけです。それで米国農務省が情報提供したものでございまして、昨年1月～今年の5月までの間に検査を行った全国6,000件のと畜場の検査結果なんです。BSE関係以外の違反も含めて、大体食肉処理に関わる22万件ぐらいの違反があったと。そのうちSRM関係の規則の遵守に関するものが1,036件だったということでございます。

その内訳ですが、SRM除去の取扱いに関する違反が467件。これが大きな問題ではないかと思えます。それ以外はHACCPのプラン違反とか、あるいは記録の保存に関する問題とかということであります。

したがって、こういったと畜に関わるすべての違反の中のSRM除去の違反というのは、約0.21%になるということになります。こういったアメリカの事情を検討するのであれば、我が国ではどういう状況になっているのかなというのが少し気になるのですが、そういう調査がなされているのかということが、わかれば教えていただきたいです。ちょっと無理かもしれないですね。ごめんなさい。

寺田委員長 わかりますか。

小泉委員 これはもう管理の問題ですので、結構です。ただ、米国の事実だけについて申し述べておきます。

寺田委員長 お答えのところだからいいんですけども、5ページの答えのところ「リスク評価に際しては、と畜場等の衛生管理に関する規則の遵守状況等も含め」とあります。どういう規則があるかということを含めて審議をやっていきますけれども、管理側の問題ですから、遵守状況まではとてもではないけれども、私どもの「プリオン専門調査会」ではできないということです。これは管理側がやっているということなんですけれども、これはちょっと気がつかなかった話だと思います。

今、言われたような、読んでいるうちにおっというので結構ですからおっしゃって下さい。国民が期待していることはわかりますけれども、委員会ができることとできないことがありますということを、事あるごとに言っておかないといけませんね。

小泉委員 それに追加して、これらについて米国は、一応指摘して、事後の検証もやっているという報告が出されています。だから、どういうふうにちゃんと守ったかということも、検証されているというふうに報告されています。

國枝評価課長 ちょっと追加ですけれども、今、委員長が言われた件のところですが、リスク評価についての遵守状況等という部分なんですけど、ちょっとこれは質問が1,036件の話だったものですから「プリオン専門調査会」のときには、もうその内容はどのようなものかというのが専門調査会で御指摘があって、それに対して、今、小泉委員の方から御指摘があったような形で、どのようなものかという説明がなされたということで、そういった部分については、きちりと見させていただいたということを入れさせていただいたということでございます。

寺田委員長 わかりました。

何かほかにありますか。

よく言われる携帯でやるというのは、実際にはどういうふうにするんですか。いい方法だと思うんですが。若い人はみんな携帯をちょくちょく見ているから、あれは随分かかるんですか。やり方としてどうなんですか。どなたか御存じないですか。

吉岡勸告広報課長 携帯のモバイル版につきましてホームページを作成するとなりますと、携帯電話の機種がさまざまございまして、現時点ではかなり機種の依存性がございしますので、そういうふうなことも含めてです。あと提供できる情報の量等もございしますので、それらも含めた検討が必要になるかという状況でございます。

なお、先ほどの委員長からの御指摘、また小泉先生からの御指摘の件につきましては、先ほど委員会関係ということで委員会のみに限って御紹介をさせていただきましたが、6ページの方に、併せまして農水省の方からその都度改善措置がとられたという報告があったといったような御報告をさせていただいております。先ほどの御指摘につきましては、文言の整理を含めて、こちらのコメント等との状況も含めて整理をさせていただきたいと思っております。

寺田委員長 どうもありがとうございます。

ほかに何かございますか。

これは本当にどうもありがとうございます。モニターの方からも随分といろいろないい

御意見をいただいております、本当にありがたいと思います。

鳥インフルエンザはがたっと減ったわけですね。それは確かに食べ物で危険だということではないんですが、結果のことなんですけれども、そのときのあれでいろいろあるんですね。

そのほかに何か議事ございますか。

小木津総務課長 特にございません。

寺田委員長 それでは、本日の委員会の議事は終了いたしました。

以上をもちまして「食品安全委員会」の第 113 回の会合を閉会いたします。

次回の委員会につきましては、10月6日木曜日 14時から開催いたします。

また、明日 30日金曜日 10時から「添加物専門調査会」を公開で開催。

10月4日 14時から「プリオン専門調査会」を公開で開催を予定していますので、お知らせいたします。

どうもありがとうございました。